



令和5年度 保健師職能交流研修会



令和6年3月9日（土）山口県看護研修会館において、令和5年度保健師職能交流研修会が開催されました。山口県立大学看護栄養学部看護学科 准教授 吉村真理先生に「社会構造の変化と保健師活動 - 「保健師」のこれまで、今、そしてこれからを考える」というテーマで講演をしていただき、51名の参加がありました。

～講演～

保健師は業務独占ではなく、名称独占のもの。では、「保健師とは何か」と問われたらどう答えるか？

「保健師とは何か」を考えるために、まずは、保健師（公衆衛生看護）の歴史を振り返りました。

ウィリアム・ラスボーンの現場を大切に感じる感覚、フローレンス・ナイチンゲールの統計データの活用、リアン・ウォルドのセルツメント、保良せきの訪問婦の地区担当制などを挙げられ、公衆衛生看護の根底に流れているものは時代が変わっても同じであり、人が暮らし生活をしているところには必ず必要であることを話され、参加者みな強く頷いていました。

また、その時代の変化とニーズに合わせて保健師活動は変化し、これから先も少子高齢化やICT・デジタル化など社会は変化し続けます。社会の変化に伴い、業務の増加、困難事例の増加、保健師の分散配置など様々な課題がありますが、このような時だからこそ、改めて「保健師とは何か」を振り返り、鳥の目で視野を広く、虫の目で視野を深く、魚の目で時代の流れを見ていくことが必要になります。迷ったら飛んで上から見ることの大切さを学びました。



「保健師にしか」できないことはないけど、「保健師だから」できることはある。

こうした考えを持って、自分自身が保健師として大切にしていることは何かを改めて振り返り、時には自身にアウトリーチをしていくことが大切だということを学びました。『「保健師だから」できる』を失わないよう保健師としての「軸」を明確化していきましょう。

※セルツメント：労働者やスラムに定住して、住民との人格的接触を図りながら、医療・教育・保育・授産などの活動を行い、地域の福祉をはかる社会事業。

～グループワーク～

講演後、年代別に6～7人に分かれ、グループワークを実施しました。

【テーマ】

- ①講演を聞いての感想や思いを語ろう
- ②保健師活動での思いや悩みを共有し、今後の保健師活動について考えよう



＜グループワークでの意見＞

- ・保健師とは何か？役割は何か？改めて考える機会になった。
- ・地域との繋がりを大切に、その人らしい支援をしていきたい。
- ・保健師間で何をしてきたかを伝えていくことが重要。
- ・保健師の強みや経験を人材養成や研修等で、どう伝えていくかを考えていきたい。



年代別のグループワークという
ことで、各グループの話し
合いは盛り上がり、
様々な意見があがりました。



【研修を終えて参加者の感想等】

- ・保健師としては何かを改めて歴史等を通して考えさせられる時間となった。
- ・改めて保健師の根幹を振り返る良い機会になった。職場の保健師にも共有したい。
- ・保健師としてぶれないように、まわりと対話しながら、たまには高いところから見ながら、考えながら活動していきたいです。
- ・日々に追われて、保健師とはと考えると立ちどまることはありませんでしたが、今回改めて考える良い機会となりました。

今後も研修を企画していきますので、皆様の参加をお待ちしています

山口県看護協会保健師職能委員

